

公募制推薦入試

数 学

I

■出題のねらい

数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学A，数学Bの内容から，数学の素養を問う基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) よくできていました。
- (2) よくできていましたが， $\log$ が残った答案がありました。
- (3) 符号のミスと，大きさの2乗を求めている答案が多くありました。
- (4) キ はよくできていましたが，ク は キ よりもできていませんでした。

II

■出題のねらい

2次関数やその積分および分数関数について，基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) 全体的によくできていましたが，絶対値がついた2次関数の積分ができていない答案が散見されました。
- (2) 全体的によくできていました。

III

■出題のねらい

三角関数を含む関数の微分や極値および極限の基本的な知識について問いました。

■採点講評

- (1) よくできていました。
- (2) $-\frac{\pi}{2} < x < \frac{\pi}{2}$ の範囲で， $\cos x = \frac{\sqrt{3}}{2}$ をみたす x の値のうち， $x = -\frac{\pi}{6}$ を見落としている答案が見受けられました。
- (3) $\lim_{x \rightarrow 0} \frac{\sin x}{x} = 1$ を用いる問題でしたが，細かい計算ミス等による誤答が多く見受けられました。

IV

■出題のねらい

数列と三角関数の基礎に関する理解度および基本的な計算力について問いました。

■採点講評

- (1) (ア) は容易であり、(イ) についても誘導があるのでよくできていました。(ウ) の正答率も良好でした。また、 3^n を 3^{n-1} とした答案が見受けられましたが、 $n=1$ のときの値を調べればどちらが正しいかすぐにわかるはずです。
- (2) (1) に比べれば正答率は低いですが、完答の人も多くいました。(オ) の前にマイナス記号があることに気づかなかったためか、(オ) の解の符号間違いが少しありました。また、(カ) については、 $\pm$ 両方の答を書いた誤答が少し見受けられました。

V

■出題のねらい

3 次関数の増減および 3 次方程式の基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) よくできていました。
- (2) 多くの人が正解にたどり着いていましたが、 a の実数条件を見落とした答案が複数ありました。問題文をよく読み、注意深く答案を作成するよう心がけましょう。
- (3) 完答が多数ありました。正答率は良好で、小さなミスでも差がついていました。極値の計算間違い、増減表の記入ミスなどに注意する習慣をつけ、日頃から十分に練習を積んでおきましょう。

公募制推薦入試

英 語

I

■出題のねらい

出典は *The Asahi Shimbun* に掲載された “Foreign-friendly pedestrian crossing switch comes to Tokyo” と題するオンライン記事です。空所 [1] ～ [3] の解答には英文の内容を適切に把握していることが求められます。[4] では英文の構造についての理解力が問われます。[5] , [6] は全体的に内容を適切に理解しているかどうかを見ます。

■採点講評

[1] は “foot traffic” (徒歩での行き来) を形容するものを選ぶ問題です。「交通量が少ない」ということを言いたい場合の形容詞は “light” になります。[2] と [3] については、今までの信号機押しボタンと新しい信号機押しボタンが、それぞれどのようなものであるかを正しく理解していなければなりません。[2] の答えに “soft” を選んだ人が多かったのですが、ここは従来の押しボタンについて述べている箇所、後の部分を読めば「身体の不自由な人たちからのもっと押しやすい押しボタンを求めるリクエストが受け入れられた」と書いてあります。そこから判断して、従来の押しボタンは「強いタッチ」が必要であったということになり、“strong” が答えです。[3] については正答率70%以上の出来でした。[4] は、後ろの “how the switch works” という名詞節を目的語としていることに注意してください。選択肢③の過去分詞を選んだ人が多かったですが、過去分詞なら後ろに目的語は来ることができません。また、選択肢①の関係節 “that illustrated” が答えになる可能性は、空所の前にコンマがあることから除かれます。関係代名詞 “that” の前にはコンマは用いられないので注意しましょう。[4] の正答率は40%未満でした。[5] と [6] は、丁寧に英文を読んでいれば正答できたと思います。

II

■出題のねらい

出典は *Asahi Weekly* 掲載の「極寒の北欧で、寒さを吹き飛ばす」という記事です。[7] は意味的に文脈に合うものを選ぶかどうか、[8] と [9] では **so** 形容詞 **that** 構文、比較級の文法知識が問われます。[10] ～ [13] では英文全体の理解力が問われます。

■採点講評

空所補充問題では [7] が難しかったようです。[9] はほとんどの人が正答できていました。[10] については、英文の中で筆者が **ice swimming** をためらったということはどこにも書かれていないということに注意してください。[11] は、“**it was forbidden**” の “**it**” が何を指しているのかが分かっていたら正答できたと思います。[11] の正答率は良くありませんでした。英語では代名詞がよく用いられますが、英語の代名詞が何を指しているのか、代名詞が出てくるたびに確認しましょう。

III

■出題のねらい

場面ごとの会話を読んで、その内容と基本的な語法の知識があるかどうかを見ます。

■採点講評

[14] と [15] の正答率が低かったです。[14] の「町で」は “**in town**” ですが、“**at**” を選んだ人が多かったです。[15] は、選択肢② “**another time**” を選んだ人が多くいましたが、会話では、今から登山をするか町の観光をするかで迷っていましたが、天気予報で悪天候になるかもしれないということで、登山ではなく町での観光をすることになりました。「(登山の) 代わりに」ということで [15] は “**instead**” が答えになります。[16] は、後の **Jim** の “**OK**” という応答とその後に来る提案から判断して “**It's up to you.**” (あなたに任せます) が答えになります。[18] は正答率80%以上で、よくできていました。

IV

■出題のねらい

医療用に開発されたシャツをめぐる老夫婦の会話についての問題です。[19]と[20]は、会話の内容から意味的に適切なものを選ぶ問題です。[21]は、動詞 **wonder** の意味を正しく理解しているかを問う問題です。[22]は、表現を並べ替えて適切な英文を作ることができるかどうかを見ます。[23]と[24]は、会話の流れを正確に理解しているかどうかを見る問題です。

■採点講評

[23]の正答率が40%未満でした。夫の “But they’d miss it, wouldn’t they?” に対して、妻が “Miss what?” と聞き返し、それに対して夫が「看護師が日に何回か検温に来なくなれば、患者は皆寂しいだろうと思う」と答えています。答えは選択肢①です。代名詞の “they” や “it” の指す内容をしっかり把握することが重要です。

V

■出題のねらい

The Japan News 掲載の “Osaka museum trends as foreign tourist spot” という記事を元にして作った問題です。グラフを参照しながら英文の内容を適切に理解できているかどうかを問います。

■採点講評

[26], [27], [28], [29]の正答率が40%未満でした。[26]については、選択肢①を選んだ人が多かったのですが、“make”では「強制的に昔の日本に戻させる」という意味になってしまいます。答えは選択肢②です。[27]は、第3段落で2016年度には計389,000人の外国人がこの博物館を訪れたと書かれていて、第5段落で外国人の来館者が2016年度までの5年間で30倍よりもさらに増えたと書かれています。ということは、2011年の外国人来館者数は389,000の30分の1（約12,966）を下回ることになり、答えは選択肢①の12,000です。[28]については、本文中に「交換留学生」「労働者」「ツアーコンダクター」はどこにも出ていないということに注意してください。[29]と[30]はそれ程難しい問題ではなかったのですが、時間的にじっくり考える余裕がなかったのかかもしれません。素早く全体を解答して、その後、あやふやな箇所じっくり時間をかけるようにしましょう。

I

出典 『食事の文明論』（石毛直道）中公新書

中国料理の中で漢方薬が果たす役割を中心に述べ、その様相を日本の、特に江戸時代の健康思想と関係させた内容が本文では記されています。普段目にすることのない書物名や漢方薬名が記されていますが、具体的にそれらがわからなくとも、設問には解答できるように配慮しています。単語に惑わされることなく、本文全体の流れを把握することが重要です。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号は①～⑦）

a 歳時（事）記 b 緩和 c 孝養 d 刊行 e 施薬 f 淡泊（薄・泊） g 根幹

漢字は語彙力を確認するものです。自分で読む文章の幅を広げ、様々な語彙や表現を知るように心がけましょう。

問2【空欄補充・文脈把握】（解答番号は⑧～⑪）

Ⅰの後には「さまざまな野菜などのひとつひとつについて～」とあることを踏まえて、正解は①です。Ⅱは、季語に関することなので、正解は③です。Ⅲの直後に「日本的～成長するのは」とあるので、正解は④です。Ⅳは中国と日本との対比なので、正解は⑥です。いずれも60%超の出来でした。

問3【空欄補充・文脈把握】（解答番号は⑫）

アの前文に「飲食にたいする欲望をひかえて～」とあります。つまり「欲」に通ずるものを否定しています。正解は②です。正答率は58%でした。

問4【内容理解】（解答番号は⑬）

傍線部Aの後文にある「料理の材料となる食品のすべてが薬でもある」が正答を導くヒントです。正解は⑥です。正答率は66%でした。

問5【文脈把握・内容理解】（解答番号は⑭）

指示詞の内容を過不足なく押さえる必要があります。正解は③です。正答率は75%でした。

問6【内容理解】（解答番号は⑮）

指示詞の内容が傍線部Cの直前であることを押さえると正答を導くことができます。正解は③です。正答率は63%でした。

問7【文脈把握・内容理解】（解答番号は⑯）

傍線部Dを含む段落では、西欧諸国から自然科学の分野についてうけた影響を述べています。これを押さえると正解は⑥です。正答率は51%でした。

問 8 【内容合致】（解答番号は **17** ・ **18**）

正解は⑥・⑧です。②・③を選択した受験者がいました。①「日本の中国料理にも影響を強く与えている」、②「人体にたいしてどのような作用をもっているかという記述」、③「食事と健康が古代から密接な関係にあった」、④「料理の観点から同定した結果」、⑤「中国思想と同様に消極的な健康法を説いており」、⑦「老人栄養学においてもっとも効果のある薬品」以上が本文の内容とは異なる個所です。完答の正答率は40%でした。

問 9 【小見出し・内容把握】（解答番号は **19**）

①・④・⑤を選択した受験者が多くいました。本文では漢方薬と食事の関係を中心に書かれているので、正解は⑥です。正答率は24%でした。

Ⅱ

出典 『人生を面白くする 本物の教養』（出口治明）幻冬舎新書

本物の教養とはどのようにして身につけるべきかを説いた啓蒙書です。具体例を交えながらわかりやすく書かれていますので、容易に文意を掴むことができます。

問 1 【漢字の書き取り・読み】（解答番号は **20** ～ **24**）

全問正答の受験者はゼロでした。正答が最も少なかったのは「与件」でした。

問 2 【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】（解答番号は **25** ・ **26**）

I は直前の「高度成長時代」が、**Ⅱ** は直前の「失敗してはいけない、失点を防がなくてはならない」がヒントとなるでしょう。正答率はそれぞれ68%、88%でした。

問 3 【文脈把握により意味を考える】（解答番号は **27**）

傍線部 **A** を含む段落をよく読めば意味をすぐ掴めるはずです。正答率は74%でした。

問 4 【文脈把握・内容理解】（解答番号は **28**）

傍線部 **B** を含む段落とその1つ前の段落を読めば正答は導けます。正答率は54%でした。

問 5 【文脈把握・内容理解】（解答番号は **29**）

傍線部 **C** を含む段落直前の段落をよく読みましょう。正答率は70%でした。

問 6 【文脈把握・内容理解】（解答番号は **30**）

傍線部 **D** の直前の一文から正答が導けます。正答率は90%でした。

問 7 【文脈把握・内容理解】（解答番号は **31**）

傍線部 **E** を含む段落に続く2段落を読めば正答が得られます。正答率は79%でした。

問 8 【文脈把握・内容理解】（解答番号は **32**）

傍線部 **F** を含む段落をよく読めば容易に正答できます。正答率は74%でした。

問 9 【文脈把握・内容理解】（解答番号は **33**）

傍線部 **G** を含む段落を読めば正答は明らかでしょう。正答率は90%でした。

問10【文脈把握・内容理解】（解答番号は **34**）

傍線部 **H** を含む段落の直前の段落を読めばたやすく正答が導けます。正答率は83%でした。

問11【文脈把握・内容理解】（解答番号は **35**）

傍線部 **I** を含む段落中の「仕事や職場がすべてではないと気づく必要があります」がヒントです。正答率は68%でした。

問12【内容を理解して小見出しを選択する】（解答番号は **36**）

正答率は11%でした。著者はここで現在の日本人の価値観や人生観が職場や仕事に偏っていると主張しています。②、⑥、⑦が正解の候補ですが、他方で著者は「『ロイヤリティ』を愛する国民」や「日本人の悲しき習性」とまでは言っていないから、正解は⑦しかありません。

問13【内容を理解して小見出しを選択する】（解答番号は **37**）

正答率は44%でした。仕事とは「どうでもいいもの」と繰り返し述べているのがヒントです。「ワークライフバランス」ではなく「ライフワークバランス」と言うべきという主張はこの節全体のものではないため、⑤・⑦は不正解です。

問14【内容合致】（解答番号は **38**・**39**）

正答率は⑦が77%、⑨が35%でした。著者は「仕事に誠実に取り組む」ことを馬鹿馬鹿しいとまでは言っておらず、②は不正解です。また、仕事や職場がすべてではないと気づいて初めて教養にも目が向くと著者は述べており、④は本文と記述が逆になります。